第Ⅰ章　総括報告書作成の目的と経緯

第１節　総括報告書作成の目的

埼玉県和光市新倉３丁目 2831 番１外に所在する午王山遺跡は、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代の遺構・遺物が存在する複合遺跡である。午王山遺跡は 1960 年代の谷井 彪による論考（資料紹介）により認識・注目されることとなった。1979（昭和 54）年から 2011（平成 23）年まで、過去 15 回にわたる発掘調査により遺跡の内容が把握され、特に弥生時代の遺構、遺物が多数出土しており、午王山全体が一つの環濠集落として展開されていたことが明らかになっている（第９図）。

午王山遺跡の特徴は、主に以下６点を挙げることができる。

① 荒川（旧入間川）低地に臨む独立丘に立地する、主に弥生時代後期の集落遺跡であり、中央平坦部の居住域と東縁辺部の墓域からなる集落の全容が把握できる。

② 弥生時代中期後半から後期後半までの集落で、後期中葉前後に位置づけられる環濠を持つことから、集落の変遷と環濠との関係がつかめる。

③ 集落を囲むように３条の溝が設けられており、関東地方では類例の少ない多重環濠を持つ集落である可能性が高い。

④ 弥生時代後期の土器には、南関東系の久ヶ原式、中部高地系の岩鼻式、東海東部系の菊川式の３系統がみられ、遠隔地との交流や往来が確認できる。

⑤ 竪穴住居跡（以下、住居跡とする）の平面形態、柱穴、炉の特徴、銅鐸形土製品や銅釧の出土など、遺構や土器以外の遺物からも遠隔地との交流がつかめる。

⑥ 以上のことから、弥生時代後期の関東地方を代表する集落遺跡のひとつであるとともに、荒川流域を中心として関東地方の弥生社会を解明する鍵となり得る遺跡である。また、弥生時代後期における広域にわたる交流と、地域間関係の再編過程が把握できる。

このような遺跡の重要性を鑑み、当市では 2013（平成 25）年４月に、遺跡の第 15 次調査地区（新倉３丁目 2831- １）306 ㎡を公有地化し、和光市指定文化財（史跡）に指定することで遺跡の保存を進めた。また、2018（平成 30）年２月には午王山遺跡から出土した弥生時代の遺物 121 点が､「午王山遺跡出土品」として埼玉県指定文化財（考古資料）に指定され、遺跡・遺物ともに市民にも重要性が周知されてきた。加えて出土遺物が埼玉県指定を受けたことで、午王山遺跡は埼玉県内外の弥生時代研究者から改めて注目されることとなった。

午王山遺跡は、既に 15 回の発掘調査が行われており（第１表）、調査地点ごとに報告書が完成し、調査成果が公開され遺跡の特徴が明らかとなっているが、各報告書は各調査地点を報告するものであり遺跡全体の価値や意義を総括するものではなかった。一方で、遺跡内の一部に開発が入るなど、このままでは将来に午王山遺跡を残すことが難しいことから、早急な保存体制が望まれている。これらを総合的に判断した結果､これまでの調査成果を総括し、弥生時代集落として武蔵野台地・大宮台地における特徴や重要性を解明することにより午王山遺跡の学術的な価値を明らかにし、今後の保存と活用の基本情報とするため、総括報告書を作成した。

第１表　午王山遺跡調査一覧表

年度	調査次	調査期間	地番	調査面積	主な遺構・遺物	担当者	報告書
1978～1979 (昭和53～54)	第1次	1979.3.20～6.16	新倉３丁目2867-1外	約2,200㎡	弥生時代の方形周溝墓3基、中世の火葬墓5基・板碑45基	鈴木敏弘	・新倉午王山遺跡 ・にいくらごぼうやま1979
1981 (昭和56)	第2次	1981.8.10～11.30	新倉３丁目2836-1外	約1,500㎡	弥生時代の住居跡49軒・溝3条	鈴木敏弘	・和光市埋文報告書第９集 ・にいくらごぼうやま1982
1992 (平成4)	第3次	1993.3.1～3.26	新倉３丁目2861-1	約272㎡	弥生時代の溝2条、銅鐸形土製品、古墳時代の住居跡1軒	鈴木一郎	和光市埋文報告書第13集
1993 (平成5)	第4次	1993.8.30～9.22	新倉３丁目2844-1	約510㎡	弥生時代の住居跡7軒・溝2条	鈴木一郎	和光市埋文報告書第13集
1994 (平成6)	第5次A区	1994.6.30～9.2	新倉３丁目2836-1	約800㎡	弥生時代の住居跡2軒・溝1条	鈴木一郎	和光市埋文報告書第18集
1994 (平成6)	第5次B区	1994.6.30～9.2	新倉３丁目2842-1,2843-1	約594㎡	弥生時代の住居跡13軒・溝2条、銅鐸形土製品・土鈴	鈴木一郎	和光市埋文報告書第18集
1995～1996 (平成7～8)	第6次	1996.2.13～8.30	新倉３丁目2841-1,2842-1	約1,119㎡	弥生時代の住居跡25軒	鈴木一郎	和光市埋文報告書第23集
1997 (平成9)	第7次	1998.3.17～3.25	新倉３丁目2847-1,2861-2	約105.6㎡	弥生時代の溝1条、銅鐸形土製品	鈴木一郎	和光市埋文報告書第31集
2000 (平成12)	第8次	2000.4.3～7.18	新倉３丁目2839-1	約787㎡	弥生時代の住居跡24軒	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第33集
2000～2001 (平成12～13)	第9次A区	2001.2.13～6.10	新倉３丁目2832-1	約368㎡	弥生時代の住居跡9軒	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第35集
2000～2001 (平成12～13)	第9次B区	2001.2.26～6.29	新倉３丁目2840-1	約479㎡	弥生時代の住居跡16軒	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第35集
2004 (平成16)	第10次	2004.11.1～11.26	新倉３丁目2837-1	約567㎡	弥生時代の住居跡1軒・溝2条・方形周溝墓2基	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第57集
2004 (平成16)	第11次	2004.11.16～12.24	新倉３丁目2838-1	約178㎡	弥生時代の住居跡1軒・溝1条	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第39集
2004～2005 (平成16～17)	第12次	2005.1.28～5.9	新倉３丁目2834-1	約400㎡	弥生時代の住居跡11軒、土製勾玉・ﾐﾆﾁｭｱ土製品	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第40集
2006 (平成18)	第13次	2006.8.16～8.24	新倉３丁目2825-3	約5㎡	弥生時代の溝1条	鈴木一郎	和光市埋文報告書第38集
2006～2007 (平成18～19)	第14次	2007.3.5～5.11	新倉３丁目2834-1	約684㎡	弥生時代の住居跡16軒、土製の小玉・双角有孔土製品	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告書第42集
2011 (平成23)	第15次	2011.4.26～4.28	新倉３丁目2831-1	約306㎡	弥生時代の住居跡6軒・土坑2基	鈴木一郎	和光市埋文報告書第46集

第２節　総括報告書作成の方針

本総括報告書の作成に際しては、以下のような方針を立てて作業に当たった。

① 1979（昭和 54）年度から 2011（平成 23）年度まで 15 次にわたる発掘調査の成果を統一的に整理検討して、午王山遺跡の全体像を具体的かつ的確に把握できるようにする。

② それに基づいて、午王山遺跡の特徴および重要性を明確にする。

③ 今後の保存と活用を考える際の基本情報とする。

第３節　総括報告書作成の経緯と組織

総括報告書作成の経緯 午王山遺跡で実施した発掘調査の記録については、1979（昭和 54）年の第１次調査から直近の第 15 次調査まで、調査報告書により報告している。第１次調査によって中世の板碑群や弥生時代の３基の方形周溝墓が検出され、続く第２次調査で弥生時代の環濠集落の存在が確認されるなど、発掘調査の開始当初から報告書の中で遺跡の重要性が示されてきた。和光市文化財保護委員会委員からも、早くから遺跡の重要性が唱えられ、保存・活用の必要性への指摘を受けてきた。

市では、2007（平成 19）年７月に第１次調査出土板碑群を和光市指定文化財（考古資料）に指定し、2013（平成 25）年４月には、第 15 次調査区（新倉３丁目 2831－１）306 ㎡を和光市指定文化財（史跡）に指定するなど、遺跡の保存を進めた。また、2018（平成 30）年２月には午王山遺跡から出土した弥生時代の遺物 121 点が、「午王山遺跡出土品」として埼玉県指定文化財（考古資料）に指定されている。

このように、2018（平成 30）年に入り出土遺物が県指定文化財に指定されるなど、改めて午王山遺跡の重要性が注目されてきた。午王山遺跡の今後の保護の方向性について和光市長をはじめ市長部局を交えて検討し、検討の結果、市の施策として国史跡の指定を目指し、文部科学大臣宛ての意見具申書の提出に向けた調査を進めることとなった。これらの市の方向性に関し、2018（平成 30）年８月に開催した和光市文化財保護委員会の中で全会一致で承認された。

一般的には、史跡検討委員会を設置し、遺跡の重要性や価値づけの検討を行い、再評価するところであるが、開発が進み宅地が散見され始めている午王山遺跡の現状や、過去 15 回にわたる発掘調査の記録を報告書の中で示しており、遺跡の代表的な特徴の一つである多重環濠の可能性を示す２条の環濠の並行関係が理解できていること、居住域と墓域からなる集落の全容が把握できていること等、遺跡の詳細が明らかになっていることなどから、2019（平成 31）年１月に学識経験者により構成した午王山遺跡総括報告書策定委員会を設置し、総括報告書の作成を進めることとなった。

総括報告書の刊行に伴い、2019（平成 31）年４月に全体測量を実施し、世界測地系での遺跡内の位置座標の確認を行った（第２図）。併せて最新の航空写真撮影により、遺跡・地形の最新情報を記録した。

総括報告書作成の組織 2018（平成 30）年度から総括報告書の作成に着手し、2019（令和元）年６月に総括報告書の刊行に至った。本事業は、2018 年度は和光市単費により、2019 年度

は文化庁国庫補助事業として実施した。

各年度における事業の実施体制は、以下のとおりである。

午王山遺跡総括報告書策定委員会　2018（平成 30）年度～ 2019（平成 31（令和元））年度

石川日出志　明治大学教授

小倉　淳一　法政大学教授

柿沼　幹夫　前埼玉県文化財保護審議会委員　さいたま市遺跡調査会会長

午王山遺跡総括報告書執筆委員（午王山遺跡総括報告書策定委員会オブザーバー）

遠藤　英子　元明治大学黒曜石研究センター研究員

鈴木　敏弘　和光市文化財保護委員会委員

2018（平成 30）年度実施内容 出土資料の基礎整理・総括報告書原稿及び図版作成・編集

教育委員会事務局

教育長　戸部　惠一　教育部長　東内　京一

生涯学習課課長　横山　英子　課長補佐兼文化財保護担当統括主査　鈴木　一郎

文化財保護担当　主査　岸　勝己　主任　石田　清　主事　粂野　友也　安井　翠

文化財調査指導員　前田　秀則

整理作業参加者

非常勤職員　江口やよい　大内　一雄　坂口由加里

2019（平成 31（令和元））年度実施内容 総括報告書原稿及び図版作成・編集・刊行

教育委員会事務局

教育長　戸部　惠一　教育部長　結城浩一郎

生涯学習課課長　茂呂あかね　課長補佐兼文化財保護担当統括主査　鈴木　一郎

文化財保護担当　主査　岸　勝己　主任　粂野　友也　主事　安井　翠

文化財調査指導員　前田　秀則

整理作業参加者

非常勤職員　江口やよい　大内　一雄　坂口由加里

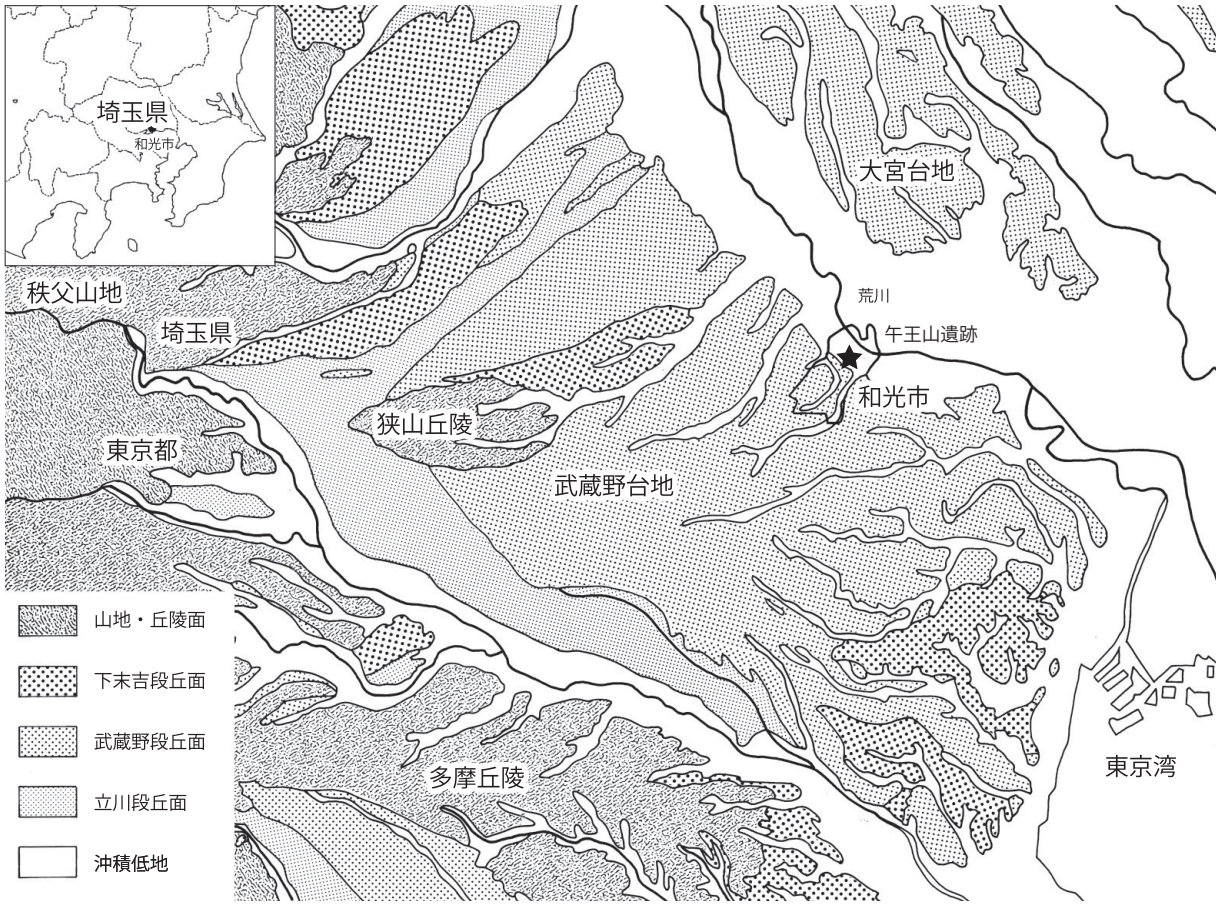
第Ⅱ章　遺跡の地理的環境と歴史的環境

第１節　立地と地理的環境

（１）和光市の地理的状況

午王山遺跡は、埼玉県和光市に所在する。和光市の規模は、東西約 2.5 ㎞・南北約 4.9 ㎞、面積 11.04 ㎢をはかる。北は荒川（旧入間川）を挟み戸田市、東は白子川を挟み東京都板橋区、南は東京都練馬区、西は越戸川を挟み朝霞市と隣接している。市内の中央を南北に縦断するように東京外かく環状道路、東側の南北を主要地方道練馬川口線（県道 68 号線）が貫き、市内中央には東西に東武東上線・地下鉄有楽町線・副都心線が走るほか、それに並行して同じく東西方向に川越街道（国道 254 号線）が通る。このような都心への交通の利便性は和光市の大きな魅力の一つであり、また都心から 15 ～ 20 ㎞圏内に位置することから、近年市街地化が急速に進む地域である。

和光市の地形は、武蔵野台地と荒川低地からなり、台地が約 70％、沖積低地が約 30％の割合で市域を占める。和光市の大半が位置する武蔵野台地は関東平野の南西部に広がる洪積台地で、北西を荒川の支流である入間川、北東を荒川、南を多摩川の各河川およびそれらの氾濫原である沖積低地によって画された、東西幅約 50 ㎞の規模を有する国内最大級の洪積台地の一つである。武蔵野台地の標高は青梅付近の約 180m を扇頂として東に向かって徐々

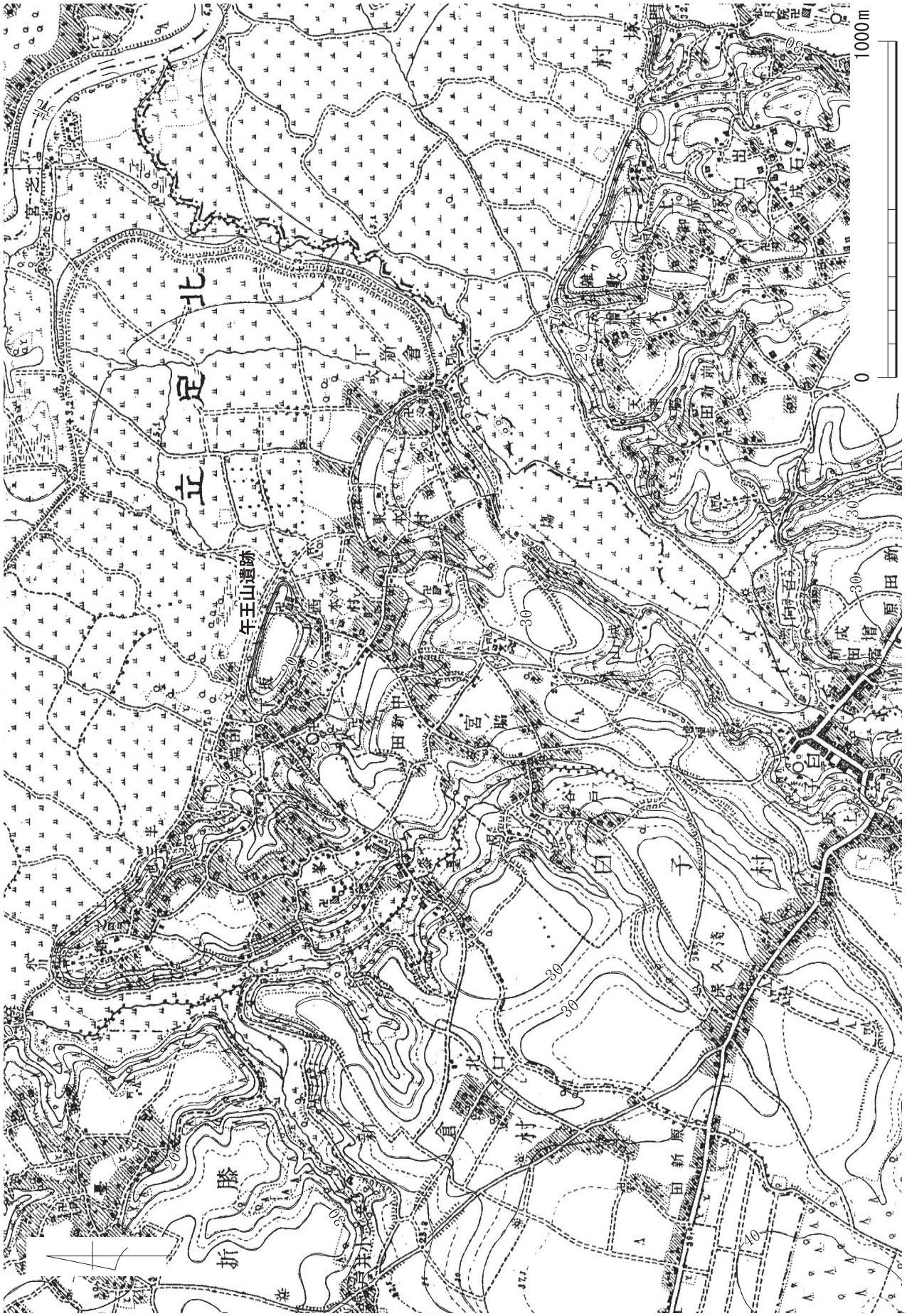


第１図　武蔵野台地と周辺地形区分図（S=1/400000）

点　名	X座標	Y座標
KK2	-22711.085	-18607.536
KK8	-22629.028	-18585.929
KK12	-22666.350	-18607.475
KK14	-22653.143	-18630.506
KK15	-22647.935	-18631.317
KK22	-22639.727	-18653.455
KK27	-22605.981	-18704.266
KK28	-22610.970	-18695.511
KK34	-22618.639	-18682.039
KK39	-22611.323	-18716.111
KK50	-22597.972	-18747.359
KK51	-22593.962	-18746.537
KK54	-22601.337	-18713.816
KK59	-22586.235	-18798.068
KK67	-22587.822	-18771.319

IX系　世界測地系（測地成果 2011）

第２図　午王山遺跡座標図



第３図　午王山遺跡地形図〈明治 43 年測図二万分之一「白子」を改変〉（S=1/16000）

に低くなり、和光市域では台地上で 24 ～ 40 m程となっている。武蔵野台地内には形成時期や標高、構成層を異にした段丘面が存在することが分かっている（貝塚 1979）。古い順に多摩面（狭山丘陵）、下末吉面、武蔵野面（武蔵野段丘）、立川面（立川段丘）と大きく 4 つに分類され、このうち本市域は武蔵野面に位置している。

和光市内における武蔵野台地の地層は、最上層は黒色腐食土に覆われた土壌で、この下に関東ローム層である立川ローム層・武蔵野ローム層、次に凝灰質の粘土層が分布する。その下には砂礫を含む武蔵野礫層、さらに下には貝化石・巣孔化石を含む海成層である東京層が横たわる。この東京層はさらに、細砂層の上部東京層と、砂礫層の東京礫層に分けることができる。

和光市の地形発達をみるにあたり、武蔵野台地の成り立ちを追っていくと、約 10 万年前に古東京湾の海退が始まり、その際に湾内に沈み取り残された貝類が化石として堆積し東京層となる。つづく約８万年前には､古多摩川を氾濫原とし武蔵野礫層を形成し､その上にローム層が積もっていく。そして約６万年前には、荒川・利根川が同時に荒川筋を流下する。約２万年前、ウルム氷期の中でも最も寒冷な時期を迎えると、台地と低地の高低差は最大となる（中村 2018）。この間に、武蔵野台地に小支谷の刻みが数多く入り込み、午王山遺跡が乗る小丘が形成されたと考えられる。

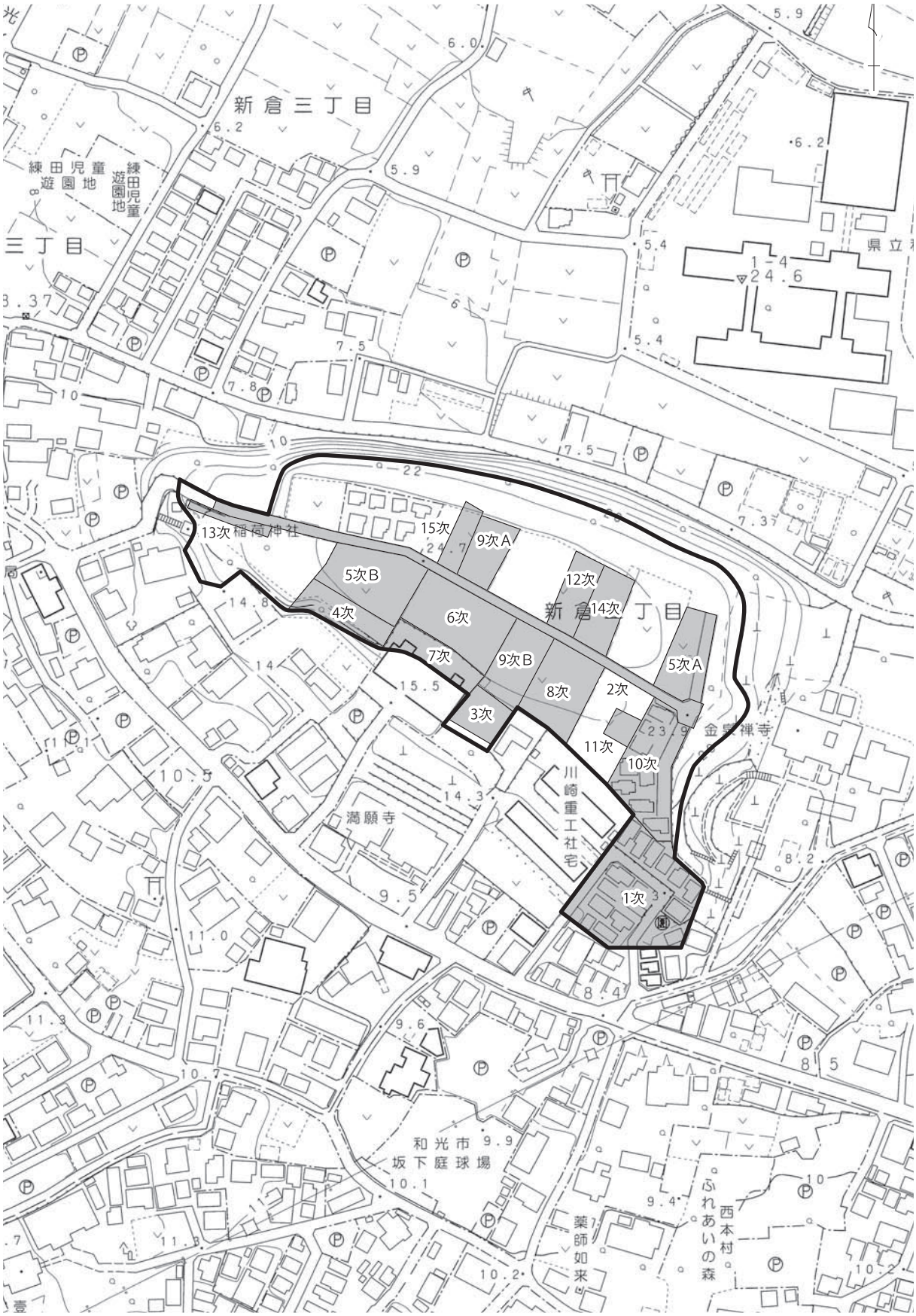
市内を流れる主要な河川は荒川（旧入間川）と白子川、越戸川の３河川で、ほかは市内中央部を流れる谷中川と谷戸川である。白子川は、練馬区東大泉（大泉井頭公園）を発し和光市・練馬区の境、板橋区との境を流れ新河岸川にそそぐ。越戸川は、七ツ釜（東京メトロ和光車両基地内・陸上自衛隊朝霞駐屯地内など）を発し和光市・朝霞市の境を流れ、強清水などの湧水を集めながら谷中川と合流し新河岸川にそそぐ。また谷中川は、旧大泉村長久保付近（大泉中央公園）を源として和光市の中央部を流れ、途中から谷戸川が合流し越戸川にそそぐ。市域は荒川及びこれらの中小河川により、台地には多くの浸食谷が形成され、複雑な地形を呈している。そのため市内各所には湧水が多く見られ、現在約 20 か所を数える。

（２）午王山遺跡の地理と地形の概要

午王山遺跡は、武蔵野台地の北東端に位置し荒川右岸の独立丘上に立地する。遺跡の規模は、東西約 250m、南北では東側が約 170m・西側が約 50m、面積は約 19,781 ㎡を測る。標高は約 24m で、低地との比高差は約 18m である。また遺跡が乗る午王山全体を見ると、ふもとで東西約 350m、南北では東側が約 200m・西側が約 150m、面積は約 61,250 ㎡である。

午王山遺跡の平坦部及び斜面部の現況をみると、北側斜面は雑木林で、急斜面のため「土砂災害特別警戒区域」に指定され、東側は寺院とそれに付属する墓地となり、上部平坦部は畑地として営まれているほか、一部は宅地となっている。

午王山遺跡の周囲は荒川によって形成された沖積低地である。開析された遺跡南側は、宅地化され住宅が密集する。遺跡北側の荒川低地一帯はかつて「新倉田んぼ」と称され多くが水田として利用されていた。その中で午王山の北側には広い湿地帯が広がり、午王山近くを一大湧水地点として豊富な湧水により中央には「溜池」と呼ばれた農業用水池が存在した。昭和初期には農業用水の役割を発揮していたが、その後農業人口が減り、水田と導水路も減少した。やがて昭和 16 年に農民から「養魚場として利用したい」という声が上がり、翌



第４図　午王山遺跡発掘調査位置図（S＝1/2500）

年には鯉の稚魚を放ち用水池は養魚場に姿を変えた。しかし数年後には雷魚の出現により池は荒れ、管理者の人手不足も重なり養魚場としての役目を終えることとなった。やがて昭和25年頃には湧水は涸れ、ついには用水池としての機能を完全に失う。のちにこの地は埋め立てられ、現在は昭和47年に開校した県立和光高校が所在する。

現在、午王山北側の一部では、堆積した土層を観察することができる。武蔵野礫層や粘土層のほか上部東京層の最上層の一部があらわれ、海成層の中には生痕化石を観ることができる。

【引用・参考文献】

貝塚爽平 1979『東京の自然史〈増補第二版〉』紀伊國屋書店

中村新之介 2018『平成29年度 特別展 水のゆくえ～荒川の歴史～』板橋区立郷土資料館

和光市 1983『にいくらさかした - くらしのあゆみ - 』和光市坂下公民館歴史委員会

和光市 1987『和光市史 通史編 上巻』和光市

和光市 2015『和光市市民提案型協働事業 和光市湧水環境調査 報告書』和光市市民環境部環境課 NPO法人 和光・緑と湧き水の会

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境

遺跡の概要　午王山遺跡は、埼玉県和光市新倉３丁目2831番１外にかけて所在する。本遺跡の発掘調査は1979(昭和54)年に実施された第１次調査に始まり、現在までに市道整備や宅地造成､農地改良工事に伴う調査と史跡整備に伴う確認調査が計15回行われている（第４図）。これまでの調査の結果から旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。なかでも主体となるのは弥生時代で、これまでに確認された住居跡は、弥生時代中期後半から後期後半までの152軒にのぼり、出土遺物から弥生時代後期中葉から後期後半に比定される住居跡が多数を占めている。住居跡以外の遺構としては、方形周溝墓が遺跡南東側第１次調査区の緩斜面から３基、隣接する第10次調査区から２基検出されている。また、環濠が３条検出された。内環濠のＡ溝（旧第１号溝・第２号溝）は第２次・３次・４次・５次・７次・10次・11次調査から、外環濠のＢ溝（旧第６号溝）は第３次・４次・５次・10次調査から、条濠とみられるＣ溝（旧第５号溝）は第２次・13次調査からそれぞれ検出されており､本遺跡は環濠集落として周知の遺跡である（第９図）。このほか､時期は異なるが、第１次調査区からは中世の板碑が45基検出されており、和光市指定文化財となっている。

（１）午王山遺跡周囲の弥生時代の市内遺跡

現在和光市内では43か所の遺跡が確認されている（第５図・第２表）。このうち、午王山遺跡周囲の弥生時代の市内遺跡では、本遺跡の北西側、南東方向に伸びる幅の狭い台地上には上之郷遺跡（№.１）、花ノ木遺跡（№.２）、半三池遺跡（№.34)、峯遺跡（№.35)、峯前遺跡（№.３）が位置している。

舌状の台地先端に位置する上之郷遺跡は２回の調査が実施されており、弥生時代の遺構は弥生時代後期の住居跡が３軒検出されている。

花ノ木遺跡では和光市主体の調査15回と東京外かく環状道路建設に伴い実施された埼玉

県埋蔵文化財調査事業団による調査を合わせて 16 回の調査が実施されており、旧石器時代から近世にかけての遺構と遺物が検出されている。なかでも弥生時代・古墳時代・平安時代が主体で、弥生時代の遺構は住居跡が 17 軒、方形周溝墓が８基、環濠が３条検出されている。環濠は事業団調査区から２条、和光市主体の発掘調査区からは事業団調査区から検出された二重環濠とは別方向に展開する環濠が１条検出されており、二つの集落の存在が確認されている。

半三池遺跡は１回の調査が実施されている。弥生時代の「Ｖ字状」の溝が１条検出され、花ノ木遺跡の環濠との関連性が指摘されている。

峯遺跡は３回の調査が実施されている。主体となるのは弥生時代・古墳時代・平安時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡が２軒検出されている。

峯前遺跡は７回の調査が実施されている。主体となるのは弥生時代・古墳時代・平安時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期の住居跡が９軒、弥生時代後期末から古墳時代前期の方形周溝墓が３基検出されている。

午王山遺跡の南西側の谷を挟んだ台地上には漆台遺跡（№43）、四ツ木遺跡（№４）が位置している。

漆台遺跡は２回の調査が実施されている。弥生時代の遺構は弥生時代後期の住居跡が１軒検出されている。

四ツ木遺跡では５回の調査が実施されている。主体となるのは縄文時代・弥生時代・古墳時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡が 26 軒、方形周溝墓が２基検出されている。

午王山遺跡の南側の谷を挟んだ台地上には妙典寺遺跡（№14）、下里遺跡（№12）、支谷を挟んで吹上遺跡（№13）、吹上原遺跡（№15）、市場峡・市場上遺跡（№17）が位置している。

妙典寺遺跡は６回の調査が実施されている。主体となるのは弥生時代・古墳時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期の住居跡が９軒、後期末の住居跡が 19 軒、後期後半から古墳時代前期の住居跡が１軒検出されている。第２次調査区第 22 号住居跡からは環状石斧が出土している。

下里遺跡は１回の調査が実施されている。弥生時代の遺構は方形周溝墓が１基検出されている。

吹上遺跡は４回の調査が実施されている。主体となるのは弥生時代・古墳時代・平安時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期の住居跡が 34 軒、環濠が１条、環濠と推測される溝が１条、方形周溝墓と推測される溝が１条検出されている。第３次調査区第 26 号住居跡からは青銅製環状品が出土し、指輪と考えられている。

吹上原遺跡は８回の調査が実施されている。主体となるのは縄文時代・弥生時代・古墳時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期の方形周溝墓が 28 基、溝が３条検出されており、吹上遺跡の墓域として考えられている。また、古墳時代の円墳が周溝のみであるが４基検出されている。

市場峡・市場上遺跡は 28 回の調査が実施されている。主体となるのは弥生時代・古墳時

第２表　市内遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	主な時代・時期	所在地
1	上之郷	集	弥(中・後)・古(前)	新倉２丁目 3207 ～ 3210 外
2	花ノ木	集	旧・弥(中・後)・古・平	新倉２丁目 3440 ～ 3443 外
3	峯前	集	弥(後)・平	新倉２丁目 2987 ～ 2989 外
4	四ツ木	集	旧・縄(早・後～晩)・弥（後）・平	新倉３丁目 2925 ～ 2928 外
5	午王山	集	旧・弥（中・後）・平・中	新倉３丁目 2829 ～ 2843 外
6	上谷津	集	縄	新倉１丁目 3937 外
7	向原	集	縄	新倉１丁目 3848 ～ 3854 外
8	松山	集	縄	新倉１丁目 4012 ～ 4020 外
9	小井戸	集	縄	新倉１丁目 4252 ～ 4255 外
10	柿ノ木坂西	集	縄・中	新倉１丁目 3786 ～ 3791 外
11	柿ノ木坂	集	旧・縄(後)・平	新倉１丁目 3764 ～ 3773 外
12	下里	集・貝	弥（後）・古・奈	下新倉４丁目 4424 外
13	吹上	集・貝	縄・弥（後）・古・奈・平	白子３丁目 4417 ～ 4421 外
14	妙典寺	集	縄・弥(後)・古	下新倉４丁目 2045 ～ 2059
15	吹上原	集・古	縄(中)・弥(後)・古	白子３丁目 4445 ～ 4448 外
16	吹上貝塚	集・貝	縄(前・中)	白子３丁目 4376 外
17	市場峡・市場上	集・貝・横	縄(早・前・後)・弥（後）・平	白子３丁目 589 ～ 596 外
18	城山南	集	旧・縄	白子２丁目 1043 ～ 1048 外
19	白子宿上	集・貝	縄(早・前・後)・古・平	白子２丁目 1101 ～ 1107 外
20	吹上原横穴墓群	横	古（後）	白子３丁目 178,4463,4464 外
21	牛房	集	縄・古	南１丁目 2386 ～ 2391 外
22	城山	集	縄・弥（後）・古・平	白子３丁目 735 ～ 743 外
23	榎堂	集	弥(後)古・平・中	下新倉６丁目 133 外
24	丸山台	集	縄（後）	丸山台２丁目 25－1 外
25	水久保	集	旧・縄(中)・古・平	新倉１丁目 3673 ～ 3717 外
26	丸山	集	縄	丸山台１丁目 11－3 外
27	義名山	集	縄（後）	丸山台２丁目 23－1 外
28	中丸	集	縄	丸山台２丁目 8－11 外
29	浅川	集	縄	丸山台３丁目 10－9 外
30	庚塚	集	縄(中)・中	下新倉２丁目 1376 ～ 1380 外
31	谷戸島	集	縄(中)	下新倉２丁目 1233 ～ 1238 外
32	妙蓮寺	集	旧・縄(中)・古(後)・中	下新倉２丁目 1124 外
33	向山	集	縄(中)	南２丁目 1535 外
34	半三池	集	弥(後)	新倉２丁目 3009 ～ 3012 外
35	峯	集	縄・弥(後)・古・平	新倉２丁目 3466 ～ 3474 外
36	仏ノ木	集	旧・古・平	下新倉３丁目 906 外
37	宮ノ脇	集	縄・平	下新倉３丁目 1020 外
38	北原新田	集	縄	新倉１丁目 4324 ～ 4327 外
39	越之上	集	縄・古(前)	白子２丁目 1363 ～ 1378 外
40	白子向山	集	縄	白子１丁目 1959 ～ 1961 外
41	越後山	集	旧・縄(中)・古	南１丁目 2447 ～ 2465 外
42	西越後山	集	縄(早)・古(前)	南１丁目 2540 ～ 2545 外
43	漆台	集	縄・平	新倉２丁目 3581 ～ 3605 外

種別　集：集落跡　貝：貝塚　横：横穴墓　古：古墳
時代　旧：旧石器　縄：縄文　弥：弥生　古：古墳　奈：奈良　平：平安　中：中世　近：近世
（　）内は時期

No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	上之郷遺跡	23	榎堂遺跡
2	花ノ木遺跡	24	丸山台遺跡
3	峯前遺跡	25	水久保遺跡
4	四ツ木遺跡	26	丸山遺跡
5	午王山遺跡	27	義名山遺跡
6	上谷津遺跡	28	中丸遺跡
7	向原遺跡	29	浅川遺跡
8	松山遺跡	30	庚塚遺跡
9	小井戸遺跡	31	谷戸島遺跡
10	柿ノ木坂西遺跡	32	妙蓮寺遺跡
11	柿ノ木坂遺跡	33	向山遺跡
12	下里遺跡	34	半三池遺跡
13	吹上遺跡	35	峯遺跡
14	妙典寺遺跡	36	仏ノ木遺跡
15	吹上原遺跡	37	宮ノ脇遺跡
16	吹上貝塚遺跡	38	北原新田遺跡
17	市場峡・市場上遺跡	39	越之上遺跡
18	城山南遺跡	40	白子向山遺跡
19	白子宿上遺跡	41	越後山遺跡
20	吹上原横穴墓群	42	西越後山遺跡
21	牛房遺跡	43	漆台遺跡
22	城山遺跡		

第５図　和光市遺跡分布図

代・平安時代で、弥生時代の遺構は弥生時代後期から後期末の住居跡57軒が検出されている。

（２）午王山遺跡周辺の弥生時代遺跡

午王山遺跡が立地する荒川下流域では、中・小河川による支谷によって形成された台地上や低地の自然堤防上に弥生時代の集落遺跡の分布が数多くみられる。第６図に遺跡の分布を示した。

以下には周辺の遺跡として埼玉県富士見市、志木市、朝霞市、和光市、さいたま市、川口市、戸田市、東京都板橋区、北区、荒川区、文京区、新宿区、中野区の主な遺跡の概要を時期ごとに説明する。遺跡については第３表に午王山遺跡周辺の弥生時代遺跡一覧表を提示しているので併せて参照されたい（遺跡番号は第６図の番号と一致している）。

弥生時代中期　遺跡は低地を望む台地端部や深く入った谷の縁辺部に立地するが、さいたま市本村遺跡（№84）は荒川低地内の自然堤防上に立地している。

武蔵野台地では富士見市南通遺跡（№12）、朝霞市ハケタ・中通遺跡（№21）、向山遺跡（№30）、新屋敷遺跡（№33）、和光市花ノ木遺跡（№36）、午王山遺跡（№42）、板橋区成増との山遺跡（№51）、赤塚氷川神社北方遺跡（№53）、松月院境内・大門・赤塚下寺家番匠免遺跡（№54）、沖山遺跡（№55）、四葉地区遺跡（№56）、中台三丁目東丘陵・中台畠中遺跡（№61）、志村城山遺跡（№62）、小豆沢貝塚遺跡（№63）、北区赤羽台遺跡（№67）、亀山遺跡（№70）、飛鳥山遺跡（№72）、御殿前遺跡（№74）、荒川区道灌山遺跡（№79）、文京区千駄木三丁目南遺跡（№110）、本郷元町遺跡（№111）新宿区下落合二丁目遺跡（№80）、下戸塚遺跡（№81）等が分布する。このうち、沖山遺跡、志村城山遺跡、亀山遺跡、飛鳥山遺跡、道灌山遺跡、千駄木三丁目南遺跡、本郷元町遺跡では環濠が検出されている。道灌山遺跡北西側に隣接する北区田端不動坂遺跡で検出された溝跡が道灌山遺跡で検出した環濠の一部である可能性があり、同一集落であることが指摘されている。方形周溝墓はハケタ・中通遺跡、向山遺跡、赤塚氷川神社北方遺跡、志村城山遺跡、赤羽台遺跡、御殿前遺跡、下落合二丁目遺跡で確認されている。また、下落合二丁目遺跡では土坑からほぼ完形の大型土器棺が検出されている。

大宮台地ではさいたま市太田窪貝塚遺跡（№97）、円正寺遺跡（№98）、明花向遺跡（№99）、大北遺跡（№102）等が分布する。明花向遺跡では方形周溝墓が確認されている。

弥生時代後期　遺跡数が増加し、検出された住居跡の軒数は多数にのぼる。遺跡は中期同様に台地端部、谷の縁辺部に立地するが、北区豊島馬場遺跡（№68）、さいたま市本村遺跡、戸田市鍛冶谷・新田口遺跡（№108）は荒川低地内の自然堤防上に立地する。

環濠が確認されている遺跡は、武蔵野台地では富士見市観音前遺跡（№７）、北通遺跡（№11）、南通遺跡、朝霞市中道・岡台遺跡（№19）、稲荷山・郷戸遺跡（№34）、和光市花ノ木遺跡、半三池遺跡（№37）、午王山遺跡、吹上遺跡（№45）、板橋区赤塚氷川神社北方遺跡、沖山遺跡、四葉地区遺跡、中台三丁目東丘陵・中台畠中遺跡、根ノ上遺跡（№66）、北区赤羽台遺跡、御殿前遺跡、新宿区下戸塚遺跡等で確認されている。大宮台地ではさいたま市大谷場小池下遺跡（№95）、明花向遺跡、井沼方遺跡（№101）、川口市小谷場貝塚遺跡（№103）、上台遺跡（№107）等で確認されている。南通遺跡、御殿前遺跡では300軒を超える住居跡が検出されている。また、向山遺跡では住居跡と土坑から、午王山遺跡は環濠から銅鐸形土

製品と銅釧が出土している。高田馬場三丁目遺跡（№83）では住居跡から小銅鐸が出土している。

方形周溝墓は武蔵野台地、大宮台地、荒川低地内の自然堤防上から検出されており、北通遺跡、向山遺跡、田端西台通遺跡（№77）、下戸塚遺跡、井沼方遺跡では主体部から鉄剣・ガラス玉などの副葬品が出土している。吹上原遺跡（№46）は吹上遺跡との、田端西台通遺跡は田端不動坂遺跡との関連性が指摘されており、それぞれ集落と墓域という関係である可能性が考えられている。

【引用・参考文献】

板橋区史編さん調査会 1995『板橋区史－資料編Ⅰ考古』板橋区

江原　順 2016『第 31 回企画展 小さな銅鐸を追って－銅鐸形土製品と小銅鐸－』朝霞市博物館

柿沼幹夫 2012「荒川下流域弥生時代後期土器に関する覚書」『埼玉考古』第 48 号　埼玉考古学会

菊地有希子 2007「住居と集落」『埼玉の弥生時代』埼玉弥生土器観会編 六一書房

劔持和夫 1990「荒川流域における中期後半の弥生集落」『埼玉考古』第 27 号　埼玉考古学会

小出輝雄 2007「環濠の性格についての再考察－埼玉県内の例を中心として－」『埼玉の弥生時代』埼玉弥生土器観会編 六一書房

佐々木藤雄ほか 1988『新井三丁目遺跡』東京都中野区新井三丁目遺跡発掘調査報告書　新井三丁目遺跡調査会

佐々木藤雄ほか 1993『西原遺跡』東京都板橋区西原遺跡発掘調査報告書 西原遺跡調査会

西井幸雄・新屋雅明 1994『花ノ木・向原・柿ノ木坂・水久保・丸山台』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

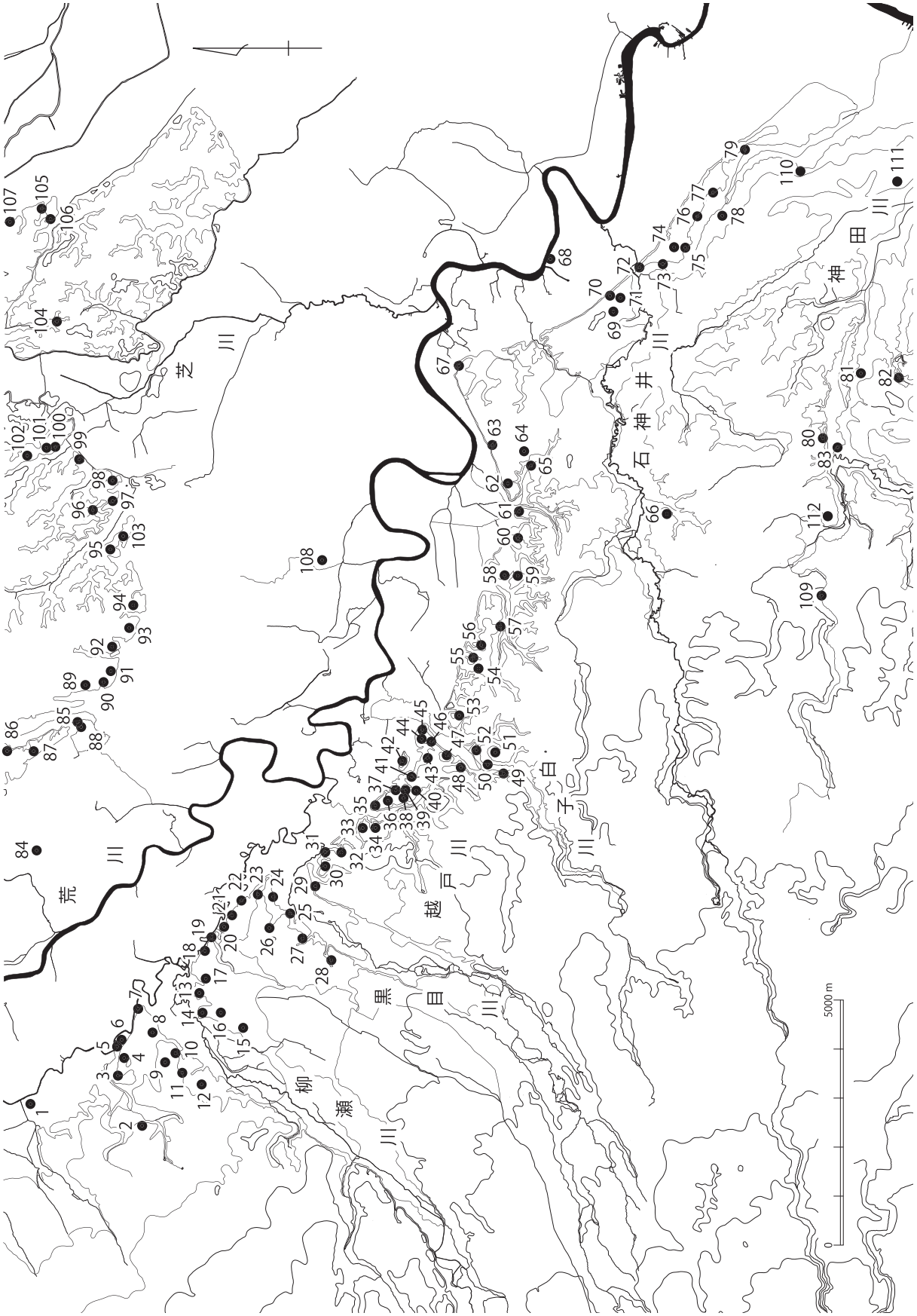
野沢　均 1999「弥生時代中期後半の集落分布について」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会

野沢　均 2001「朝霞市近傍の弥生時代研究の現状」『研究紀要』第４号　朝霞市博物館

松本　完ほか 1996『下戸塚遺跡の調査』第２部 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編 早稲田大学

山田尚友 1998「荒川下流域の弥生時代中期宮ノ台期の集落」『あらかわ』創刊号　あらかわ考古談話会

山田尚友ほか 2015『南鴻沼遺跡（第１分冊）』さいたま市遺跡調査会報告書第 165 集 さいたま市遺跡調査会



第６図　午王山遺跡周辺弥生時代遺跡分布図

第３表　周辺の弥生時代遺跡一覧表　　（○中期・●後期）

No.	遺跡名	所在地	立地	時期		遺構		備考
				中期	後期	環濠	方形周溝墓	
1	大谷	富士見市	自然堤防上		●			
2	本目	富士見市	武蔵野台地		●			
3	打越	富士見市	武蔵野台地		●			
4	松山	富士見市	武蔵野台地		●			
5	氷川前	富士見市	武蔵野台地		●			
6	水子貝塚	富士見市	武蔵野台地		●			
7	観音前	富士見市	武蔵野台地		●	●		
8	東台	富士見市	武蔵野台地		●		●	
9	栗谷ツ	富士見市	武蔵野台地		●			
10	別所	富士見市	武蔵野台地		●			
11	北通	富士見市	武蔵野台地		●	●	●	
12	南通	富士見市	武蔵野台地	○	●	●		
13	中野	志木市	武蔵野台地		●			
14	城山	志木市	武蔵野台地		●			
15	西原大塚	志木市	武蔵野台地		●		●	
16	中道	志木市	武蔵野台地		●		●	
17	市場裏	志木市	武蔵野台地		●		●	
18	田子山	志木市	武蔵野台地		●		●	
19	大山第一	朝霞市	武蔵野台地		●		●	旧薬師堂山
20	大瀬戸	朝霞市	武蔵野台地		●			
21	ハケタ･中通	朝霞市	武蔵野台地	○			○	旧宮戸ハケタ
22	長塚	朝霞市	武蔵野台地		●			
23	人部･峡	朝霞市	武蔵野台地		●			
24	中道･中道下	朝霞市	武蔵野台地		●			
25	西久保･宮山	朝霞市	武蔵野台地		●			
26	北原･谷津	朝霞市	武蔵野台地		●			
27	南割･西久保	朝霞市	武蔵野台地		●			
28	泉水山･富士谷	朝霞市	武蔵野台地		●			
29	中道･岡台	朝霞市	武蔵野台地		●	●		
30	向山	朝霞市	武蔵野台地	○	●		○ ●	
31	宮台	朝霞市	武蔵野台地		●			
32	宮台･宮原	朝霞市	武蔵野台地		●			
33	新屋敷	朝霞市	武蔵野台地	○	●			旧台の城山
34	稲荷山･郷戸	朝霞市	武蔵野台地		●	●		旧稲荷山東
35	上之郷	和光市	武蔵野台地		●			
36	花ノ木	和光市	武蔵野台地	○	●	●	●	
37	半三池	和光市	武蔵野台地		●	●		
38	峯	和光市	武蔵野台地		●			
39	峯前	和光市	武蔵野台地		●		●	
40	漆台	和光市	武蔵野台地		●			
41	四ツ木	和光市	武蔵野台地		●		●	
42	午王山	和光市	武蔵野台地	○	●	●	●	

（○中期・●後期）

No.	遺跡名	所在地	立地	時期		遺構		備考
				中期	後期	環濠	方形周溝墓	
43	妙典寺	和光市	武蔵野台地		●			
44	下里	和光市	武蔵野台地		●		●	
45	吹上	和光市	武蔵野台地		●	●	●	
46	吹上原	和光市	武蔵野台地		●		●	
47	市場峡・市場上	和光市	武蔵野台地		●			
48	城山	和光市	武蔵野台地		●			
49	成増一丁目	板橋区	武蔵野台地		●			
50	成増百向･成増新田原	板橋区	武蔵野台地		●			
51	成増との山	板橋区	武蔵野台地	○	●			
52	菅原神社台地上	板橋区	武蔵野台地		●			
53	赤塚氷川神社北方	板橋区	武蔵野台地	○	●	●	○ ●	
54	松月院境内･大門･ 赤塚下寺家番匠免	板橋区	武蔵野台地	○	●		●	
55	沖山	板橋区	武蔵野台地	○	●	○ ●		
56	四葉地区	板橋区	武蔵野台地	○	●	●	●	
57	徳丸東･徳丸北野神社	板橋区	武蔵野台地		●		●	
58	西台	板橋区	武蔵野台地		●			
59	西台後藤田	板橋区	武蔵野台地		●		●	
60	中台馬場崎貝塚	板橋区	武蔵野台地		●			
61	中台三丁目東丘陵･中台畠中	板橋区	武蔵野台地	○	●	●	●	
62	志村城山	板橋区	武蔵野台地	○	●	○	○	
63	小豆沢貝塚	板橋区	武蔵野台地	○	●		●	
64	志村･志村坂上･四枚畑	板橋区	武蔵野台地		●		●	
65	前野熊野北	板橋区	武蔵野台地		●			
66	根ノ上	板橋区	武蔵野台地		●	●		
67	赤羽台	北区	武蔵野台地	○	●	●	○ ●	
68	豊島馬場	北区	自然堤防上		●			
69	十条台一丁目	北区	武蔵野台地		●			
70	亀山	北区	武蔵野台地	○	●	○		
71	北区役所	北区	武蔵野台地		●			
72	飛鳥山	北区	武蔵野台地	○	●	○	●	
73	七社神社前	北区	武蔵野台地		●		●	
74	御殿前	北区	武蔵野台地	○	●	●	○ ●	
75	西ヶ原貝塚	北区	武蔵野台地		●			
76	中里峡上	北区	武蔵野台地		●			
77	田端西台通	北区	武蔵野台地		●		●	
78	田端町	北区	武蔵野台地		●			
79	道灌山	荒川区	武蔵野台地	○		○		
80	下落合二丁目	新宿区	武蔵野台地	○	●		○ ●	
81	下戸塚	新宿区	武蔵野台地	○	●	●	●	
82	戸山	新宿区	武蔵野台地		●			
83	高田馬場三丁目	新宿区	武蔵野台地		●			
84	本村	さいたま市	自然堤防上	○	●			

（○中期・●後期）

No.	遺跡名	所在地	立地	時期		遺構		備考
				中期	後期	環濠	方形周溝墓	
85	札之辻1号	さいたま市	大宮台地		●		●	
86	札之辻3号	さいたま市	大宮台地		●			
87	日向北	さいたま市	大宮台地		●			
88	西堀上ノ宮	さいたま市	大宮台地		●		●	
89	別所子野上	さいたま市	大宮台地		●		●	
90	別所西野台	さいたま市	大宮台地		●			
91	別所	さいたま市	大宮台地		●			
92	白幡本宿	さいたま市	大宮台地		●			
93	白幡上ノ台	さいたま市	大宮台地		●			
94	根岸	さいたま市	大宮台地		●			
95	大谷場小池下	さいたま市	大宮台地		●	●		
96	善前南	さいたま市	大宮台地		●			
97	太田窪貝塚	さいたま市	大宮台地	○				
98	円正寺	さいたま市	大宮台地	○	●			
99	明花向	さいたま市	大宮台地	○	●	●	○	
100	井沼方南	さいたま市	大宮台地		●			
101	井沼方	さいたま市	大宮台地		●	●	●	
102	大北	さいたま市	大宮台地	○				
103	小谷場貝塚	川口市	大宮台地		●	●	●	
104	木曽呂	川口市	大宮台地		●			
105	戸塚5丁目	川口市	大宮台地		●			
106	戸塚立山	川口市	大宮台地		●			
107	上台	川口市	大宮台地		●	●	●	旧精進場・戸塚上台・七郷神社裏
108	鍛冶谷・新田口	戸田市	自然堤防上		●		●	
109	平和の森公園北・新井三丁目	中野区	武蔵野台地		●		●	
110	千駄木三丁目南	文京区	武蔵野台地	○		○		
111	本郷元町	文京区	武蔵野台地	○		○		
112	落合	新宿区	武蔵野台地		●			